



三菱マテリアル株式会社

2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答議事録

2024 年 11 月 8 日

登壇者：執行役常務（CFO）高柳喜弘

2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答議事録

[Q]：金属事業、銅加工事業にてヘッジを停止したことによる影響を改めて説明してほしい。第 1 四半期に、金属事業で 68 億円、銅加工事業で 7 億円の影響があって、第 2 四半期、上期累計ではどのように推移したのか、下期はどのように見通しているのかを整理して教えてほしい。

[高柳]：第 1 四半期は金属事業で 68 億円、銅加工事業で 2 億円の影響がありました。第 2 四半期では為替が円高基調となったため、金属事業でマイナス 41 億円、銅加工事業でマイナス 44 億円の影響がありました。また、金属事業の銅地金の輸出代金回収時に生じる為替差は、その他営業外損益に含まれておりまして、マイナス 19 億円の影響が第 2 四半期にありました。上期累計では、金属事業で 8 億円、銅加工事業でマイナス 42 億円の影響がありました。

下期は、金属事業で 8 億、銅加工事業でマイナス 1 億の影響を見込んでいます。年間では、金属事業で 16 億円、銅加工事業でマイナス 43 億円の影響を見込んでいます。

[Q]：金属事業の通期業績予想を上方修正しているが、影響の大きい実収効率の改善効果は、為替や金属価格が期末に向けて円安、上昇した場合、更なる増益効果が期待できるものなのか。

[高柳]：上期は、昨年度に PT. Smelting が行っていた拡張工事により、直島製錬所での貴金属スライムの受入数量が制限されていた反動から、貴金属の実収差が多く出ました。このプラスアルファを正確に読み切れなかった部分が当初想定にはあります。下期は、現時点で想定した数量で推移すると考えています。

期末に向かって為替や金属価格が前提条件より、円安、上昇した場合は当社業績のプラス要因となる可能性はあります。

[Q]：加工事業の下期の利益計画が上期より減益になっている。分野別、地域別の需要動向をどのように見ているのか教えてほしい。また、当初計画では、コストをかけてシェアの拡大を考えていたと思うが、今回の計画ではコストの減少を見込んでいる。当初の考えから変化があったということなのか教えてほしい。

[高柳]：地域別ですと欧州、米国での販売が当初計画より大きく落ち込んできています。日本はマーケットシェアの挽回策を図っていることにより、数ポイント持ち上がっています。しかしながら、中国における日本の OEM の販売減に引っ張れるかたちで日本での販売量自体が落ち込んできている状況です。コストの減少を見込んでいるのは人件費です。これは欧米での拡販施策のため見込んでいたものですが、足元の需要状況を見てブレーキをかけています。

[Q]：PT. Smelting の貴金属スライムは、PT. Freeport Indonesia の新製錬所が完工した後は直島製錬所では処理できなくなると認識しているが考え方は間違っていないか。その場合、損益にどの程度の影響があるのかを教えてください。

[高柳]：PT. Smelting の貴金属スライムの処理は、当社と PT. Freeport Indonesia との契約になりますので詳細にはお答えできません。

インドネシア政府は、自国でとれた天然資源は加工度を上げてから輸出する方針ですので、銅精鉱や貴金属スライムは、極力インドネシア国内で製品化してから輸出することになります。そのため、PT. Smelting の貴金属スライムも PT. Freeport Indonesia の新製錬所で処理が出来るようになれば、そちらにシフトすると考えていただければと思います。タイミングがいつになるかは、まだ把握しておりません。

損益への影響は、スライムの売買条件により変わってきますので、定量的な試算が難しいところがあります。一方で、当社は E-スクラップの処理量を増やす計画としています。ここから発生が見込まれるスライムにより、PT. Smelting からの貴金属スライムの処理減がオフセットできると考えています。

[Q]：セメント事業の下期の利益計画が上期より減益になっている。特に海外事業はどのような見通しなのか教えてください。

[高柳]：米国事業は、冬場の工事の進捗の問題と悪天候により下期は上期と比べると利益が減少する傾向にあります。また、足元のインフレによりコストの増加を見込んでいます。全体として、セメント販売のモメンタムが大きく落ちているということではないと理解しています。

[Q]：銅加工事業で通期業績予想を下方修正している。ヘッジを停止したことによる影響も大きいと思うが、自動車やエレクトロニクス関連の需要が今後も戻らないと仮定した場合、下期の利益水準が、この事業の実力値と考えればいいのか。

[高柳]：当社では、経常利益見通しからヘッジを停止したことによる影響を除いた 19 億円が足元での実力値になると考えており、この利益水準は低いものであると理解しています。

自動車マーケットの回復は当社が期待していたほどではなく、自動車の生産台数は中国の EV メーカーで増えていますが、他はあまり増えていないため、当社としては苦しい状況が続くのではないかと非常に懸念しているところです。そのため、今までは自動車に偏っていましたが、半導体など今までリーチしていなかった客先や、一般伸銅品も含めた拡販に力を入れています。また、更なるコストダウンにも取り組んでいます。

[Q]：開示している感応度には、在庫評価影響が含まれていないとのことだが、ヘッジを停止したことにより外数で考えなければいけない感応度の影響度合いが今まで以上に大きくなってきている。ヘッジを停止したことによる銅価格、為替の変動影響を、どの程度考えておけばいいか。わかる範囲で解説いただきたい。

[高柳]：ヘッジを停止したことによる銅価格、為替の変動影響は、銅加工事業では銅の仕掛量、金属事業では時々のシップメントの累積なので、シップメントに偏在があると、当社のオープンポジションも変わってきます。概算値ですが、ヘッジを停止したことによる為替の変動影響は5億円から7億円ぐらいあるのではないかと試算しています。

[Q]：下期の四半期毎の利益計画について、販売環境などの外部要因が想定通り実現した場合、第3四半期と第4四半期の利益水準はどのようなイメージを持っておけばいいか、鉱山配当の入る時期も含めて教えてほしい。

[高柳]：下期の四半期毎の推移は、想定通り販売が戻ってくれば利益も順繰りに上がってくると見えています。鉱山配当は、第3四半期を見込んでいます。ただ、確定ではございませんので、第4四半期へずれる可能性もあると考えています。

[Q]：フリーキャッシュフローを黒字化することは、販売数量が戻ってこないと難しいものなのか。今後、フリーキャッシュフローを黒字にするために必要だと考えていることがあれば教えてほしい。

[高柳]：中計2030におけるPhase1、2023年度から2025年度の3カ年は投資先行で、フリーキャッシュフローはマイナスを見込んでいます。

ですが、足元の需要環境は当初想定に比べて厳しい状態でありますので、そこを考慮したマネジメントをしていきたいと考えています。

[Q]：銅加工事業の通期業績予想を下方修正したが、販売数量の減少をコスト改善などの自助努力でカバーすることはできないのか。需要の回復時期は来期のいつ頃になると考えているのか。解説いただきたい。このような需要下においても生産数量をキープしなければいけず、在庫が積み上がるといった事象は起きていないのか。

[高柳]：銅加工事業は、かなり厳しい状況だとわれわれも理解しています。コストダウンは、今までもかなり絞っていますが、もう一段階のコストダウンに取り組んでいるところでございます。各自動車メーカーやtier1の決算発表内容を見ても、視界の悪さが増してしまっているという感触でございまして、マーケットの回復時期を想定するのが難しいのが実感です。そのため、自動車以外の需要を模索している状況です。

棚卸資産は為替の円安、銅価格の上昇の状況下ですと金額が増加しますので、在庫を多く持つようなことは許容できない状況になっていきますので、コントロールしながら操業をしています。

[Q]：出資鉱山であるマントベルデでは、銅精鉱の生産も開始され下期は 15 億円の利益貢献が見込まれているが、来期は通期でどの程度の利益貢献が期待できると考えていいのか。仮に足許の為替、銅価格の状況とした場合、数量増、コストダウンなども入るので、下期の利益水準以上の貢献が期待できると考えていいか。

[高柳]：マントベルデは、下期がフル生産に近い状態だと考えています。そのため来期はこの下期の利益貢献が通期で出てくると見えています。